

委託事業実施内容報告書

平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日系人等を活用した日本語教室の設置運営】

受託団体名 財団法人 新宿文化・国際交流財団

1 事業の趣旨・目的

新宿区では多文化共生を推進しているところであるが、外国人住民が増え続ける地域社会においては、外国にルーツをもつ子どもたちへの日本語教育の必要性が顕在化している。

外国にルーツをもつ子どもたちの中には、親の都合で来日して、母語や母国の文化とは異なる日本での新たな生活環境に適応するのに苦労するケースも多い。学校生活においても、日本語が十分理解できないために、教科学習についていけない、友だちができない、自己表現ができないといった子どももいる。また、母国では優秀な成績をおさめていたのに、来日後の学校生活では日本語がわからないために成績もさがり、学習意欲を失う子どももいる。このような状況は、将来的には進学や就職、生活にも大きく影響する。日本の地域社会の一員であるこれらの子どもたちを社会からドロップアウトさせないしくみづくりを急がなければならない。

そのための有効な一つの方法として、子どもと母語を同じくする人(外国人)と日本語を母語とする人による日本語指導を行う。母語そして子どもの文化的背景を共有できる人が子どもへの日本語指導ならびに日本での学校生活に適応していくためのサポートを行うことで、子ども自身の精神的負担を軽減し、早い段階で新しい環境に適応し、学習にも専念できるようになることをめざす。また母語を同じくする人(外国人)だけでは日本語指導に必要な発音の部分で十分な教授ができないため、日本語を母語とする人も一緒に日本語指導をすることが重要である。

新宿区立の小中学校では、母語による日本語適応指導を実施しているが、指導の時間は限られており、編入学時の学校生活の説明や日本語の導入部分に費やされてしまうなど、教科学習をフォローする時間が足りないのが実状である。さらに母語での日本語指導のため、通訳的要素が高くなってしまう傾向もあるようだ。そして、適応指導後にも日本語指導を希望する子ども、学級担任が多いことも実情である。

そこで、今回、

- ・ 外国にルーツをもつ子どもたちを対象とした、日本語能力を有する外国人、及び日本人による日本語教室を開設し、編入学前後の日本語の指導を行う。
- ・ 母語による日本語指導と並行して、編入学前の子どもたちに対しては日本の学校に円滑に適応していけるよう支援する。
- ・ 教室には日本人の日本語ボランティアや日本語教師も参加し、外国人講師と一緒に子どもたちの指導にあたる。
- ・ 適応指導後の子どもたちに対しては、必要に応じた日本語指導をしていく。

ことを目的とした日本語教室を開設する。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
10 月 23 日	しんじゅく多文化共生プラザ	4名	「日本語能力を有する外国人を対象とした日本語指導者養成」の事業内容の検討	・委員自己紹介 ・事業の実施目的の確認 ・予算の確認 ・学習内容・方法の検討 ・意見交換
3 月 25 日	しんじゅく多文化共生プラザ	4名	「日本語能力を有する外国人を対象とした日本語指導者養成座」の実績成果のとりまとめ、および課題・改善点について	・委員からひとこと ・事業報告 ・収支報告 ・意見交換 ・実施成果のとりまとめ、評価 ・今後について ・事務連絡

3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称 しんじゅく子ども日本語クラス
- ② 開催場所 新宿区立しんじゅく多文化共生プラザ
- ③ 学習目標 小中学校への編入学前に必要な日本語や日本の学校文化、編入学後の学校生活、授業等にスムーズに入っていける日本語の底力をつける。
- ④ 使用した教材・リソース
DVD「ようこそ！さくら小学校へ」 AJALT
かんじだいすき 抜粋 AJALT
プリント（AJALT講師作成）
小学校国語 教科書 抜粋
「発見！わたしとぼくの学校」
「にほんごを まなぼう」
小学校、中学校教科書
世界地図 大、日本地図帳、
カレンダー 大・小、
国旗と国名カード、

ひらがな練習プリント、カタカナ練習プリント、
 動詞すごろく、
 ひらがなカード、カタカナカード、数字カード
 かんじだいすき 漢字カード
 レアリア、ランドセル

⑤ 受講者の募集方法

募集チラシを作成し、区内各施設、日本語関係団体、教育委員会、区内小中学校に配布

財団ホームページ掲載

新宿区広報、財団広報で周知

メールリングリストで日本語関係者に情報提供

⑥ 受講者の総数 10 人(中学生6人、小学生4人)(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

⑦ 開催時間数(回数) 24時間 (全 12回)

⑧日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
1	3月4日	2時間	10人	中国・中国語(4人) 韓国・韓国語(3人) ネパール・ネパール語(1人)モンゴル・モンゴル語(1人) 日本・英語(1人)	教授者4人 補助者19人	レベルチェック、日本語基本
2	3月5日	2時間	10人	〃	教授者5人 補助者19人	日本語基本、母語時間、多文化紹介
3	3月6日	2時間	10人	〃	教授者3人 補助者20人	〃
4	3月9日	2時間	10人	〃	教授者4人 補助者14人	〃
5	3月10日	2時間	10人	〃	教授者3人 補助者15人	〃

6	3月11日	2時間	10人	〃	教授者3人 補助者11人	〃
7	3月12日	2時間	10人	〃	教授者4人 補助者13人	〃
8	3月13日	2時間	10人	〃	教授者4人 補助者14人	〃
9	3月16日	2時間	10人	〃	教授者5人 補助者15人	〃
10	3月17日	2時間	10人	〃	教授者4人 補助者10人	〃
11	3月18日	2時間	10人	〃	教授者4人 補助者12人	レベルチェック、 日本語基本、母 語時間、多文化 紹介
12	3月19日	2時間	10人	〃	教授者4人 補助者18人	発表会、修了式

⑨ 特徴的な授業(2～3回分)

別紙のとおり

・3月4日(初回):レベルチェックなど

・3月18日:翌日(最終日)発表の準備、文集しあげ、レベルチェックなど

⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年 (日)数	参加回 数	当該教室での 役割
張玉芬	中国語	—	7回	授業補助, 通訳
田美枝	北京語、台湾語	—	8回	授業補助, 通訳
田中雪芹	中国語	—	6回	授業補助, 通訳
韓京仙	韓国語	—	5回	授業補助, 通訳
菊池サリンナ	北京語、広東語、英語、	—	1回	授業補助, 通訳

	マレー語			
Sung Ahkyung	韓国語	—	5回	授業補助, 通訳
キムウンリョンキム	韓国語	—	7回	授業補助, 通訳
梁海燕	中国語、韓国語	—	6回	授業補助, 通訳
佐々木澄蓉	台湾語、中国語	—	5回	授業補助, 通訳
藤谷ジェンマ	英語、フィリピン語	—	6回	授業補助, 通訳
飛田江美	中国語	—	5回	授業補助, 通訳

⑩ 支援者の名簿(⑦以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
関口明子	社)国際日本語普及協会	日本語講師	10回	講師、コーディネーター
内田雅子	〃	〃	9回	講師
塩田多賀子	〃	〃	10回	〃
三田美佐子	〃	〃	10回	〃
大久保美子	〃	〃	4回	〃
赤木	〃	〃	4回	〃
大和万里子	講座修了者		12回	講師補助
土谷千景	〃		5回	〃
長田頼忠	〃		5回	〃
浅沼みどり	〃		7回	〃
磯まゆみ	〃		10回	〃
山口富久	〃		6回	〃
神原恭子	〃		5回	〃
沢英司	〃		6回	〃
小峯邦子	〃		6回	〃
原田久仁子	〃		8回	〃
鈴木泰子	〃		5回	〃
任田季子	〃		5回	〃
佐藤勉	〃		6回	〃
菅野剛男	〃		6回	〃
高野文子	〃		6回	〃
足立佳奈子	〃		4回	〃
金子美和	〃		7回	〃

半田美代子	〃		5回	〃
青柳久代	〃		5回	〃

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

- ・子どもたちは12回通ってきた。教室として楽しい居場所になったようである。
- ・4月から編入する子どもは日本語がゼロ状態であったが、学校で使用する基本的な日本語を習得することができた。

② 学習者の習得状況

- ・学習者の日本語習得状況はさまざまで、個別の対応をした。
- ・すでに教育委員会での日本語サポートを受けた学習者もいたが、基礎となる部分で不十分な部分が多く、そこに時間をかける学習者もいた。
- ・日本語学習意欲がない学習者は、母語で話を聞くことが重要であった。
- ・帰国子女の学習者の対応。今回の場合、特に学校へ適応が難しい児童が参加したが、学習としての日本語習得の難しさ、その児童の心のケアも必要だということを感じた。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

- ・学習者にとって、母語が話せる支援者、同国出身の学習者との出会いがあり、そこで学校でのストレスを発散させ、母語で交流することで自分自身を取り戻せたような部分があった。このような居場所は日本語学習意欲をもつためにも重要なことである。
- ・ゼロ状態の学習者が自分の名前を言ったり、学校で使用することばを覚えたことによって、学校に入る意欲、日本語学習の意欲が高まり、宿題も率先してやってきた。
- ・教育委員会での日本語サポートを受けた学習者の十分でない部分を見つけることで、その学習者に指導することができた。
- ・母語話者と日本人支援者の協力体制が研修時からできあがっており、学習効果にも反映された。
- ・日本語教室終了後も春休み中、有志で引き続き日本語を教えることになった。
- ・今後子どもたちへの日本語学習支援へ関心が高く、引き続き支援者として活動することを希望する人が多くいた。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果 等

(社)国際日本語普及協会(助言、指導)
 SNN 新宿日本語ネットワーク(情報交換、本事業の周知協力)
 新宿区教育委員会(情報交換、本事業の周知協力)
 こどもクラブ新宿(情報交換、本事業の周知協力、修了者の受入れ先)

⑤ 改善点、今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状

新宿区の外国人登録者数は31,000人以上(新宿区住民の約 10.5%にあたる)以上にのぼり、住民の10人に1人が外国人という状況で、区内各地区において外国人が近隣に住んでいるという状況が日常になっている。国籍別で見ると韓国・朝鮮、中国が全体の75%を占め、全体では110を超える国の人々が集まっている。新宿区に住む外国人は留学生や就学生が多く、その一方で、永住者など、長く日本に住むであろう人もここ8年の間で約3倍に増加している。

子どもに関しては、親だけ先に来日し生活が安定したところで子どもを日本に來させるケース(呼び寄せ)も多く、子どもの数も全体的に増えている。

平成18年度に当財団が実施した「両親のどちらか、または両方が外国人である児童・生徒の状況に関する調査」によると、区内公立小中学校全クラスのうち89%のクラスに外国にルーツをもつ子どもたちが在籍しており、1クラスあたりの平均も3.3人となっている。全校児童数の60%以上を外国にルーツのある子どもで占める小学校もある。また、1年を通して転入があり、その都度必要な場合は日本語適応指導(日本語指導、時間に限りあり)がつくが、転入前の事前学習はない状況である。

日本語能力を有する外国人の中には、日本人が多く受けている日本語ボランティア養成講座に参加する人が少しずつ増えていることから、日本語を教える活動に興味を持っている外国人も潜在的に増えていると考えられる。

b. 今後の課題

子どもたちのことだけではなく、いかに保護者に日本の現状などを理解してもらうかも重要な課題である。保護者も巻き込むような支援の方法を考えていきたい。

そして、子どもと間近で接していく教員向けの研修も教育委員会に提案、また教員向けに十分な情報提供も必要である。

その他、児童生徒個々の情報が蓄積されることで、その後末永くその児童生徒の日本語に関する情報を把握できるようにし、継続的な支援につながるようしくみづくりをしていきたい。そして、児童生徒がいつでも安心して戻れる居場所づくりにつなげていきたい。

現在、新宿区教育委員会には外国人の相談に対してカウンセリング的な対応をする窓口がない。スクールカウンセラーは配置されているが、外国につながるを持つ子どもに関する専門知識を持っている人を探すことは難しい。今後、帰国子女、外国につながるのある子の状況を理解できる相談窓口の設置を期待するとともに、働きかけていきたい。また、年間150名を超える日本語サポート指導を受ける児童生徒のいる新宿区だからこそ、児童生徒の背景は様々で、外国につながるのある児童生徒に対応するコーディネーター、専門官がいてもおかしくないのではないか。

母語支援者、日本人支援者、学校、地域、行政等との連携をもとに、全国を引っ張って

いけるような新宿モデルをつくっていきたい。

c. 今後の活動予定, 展望

外国人登録者数の増加に伴い、外国につながりをもつ子どもも増加している。と同時に子どもたちへの日本語学習支援は必要不可欠なものとなり、当財団も平成21年度の子ども支援事業に向け、準備をすすめている。主なものは児童生徒の放課後支援、そして夜の支援である。これらの実現は財団、新宿区の関係部署である文化観光国際課、教育委員会、関係団体、ボランティアの方々との連携によるものである。放課後支援に関しては、初めての試みであるため、試行錯誤の部分が多々あるが、子どもたちを取り巻く環境(保護者、学校、地域、ボランティア、関係機関、関係団体など)と連携してすすめていきたい。